

二宮陸雄 著

『新装復刻版 インスリン物語』

多数の医史学書を著し、翻訳者としても著名である故二宮陸雄さんの『インスリン物語』が復刻出版されたので紹介します。日本医史学会会員であり、日本での糖尿病のインスリン療法の先駆者でもあった二宮さんが、2002年に医歯薬出版より刊行された『インスリン物語』が新装復刻版として出版されたものです。

現在の医療現場においてインスリンは欠かすことのできない薬剤である。その発見に至ったバンティングとベストの報告はバンティング29歳、ベスト19歳の1921年のことであった。その研究室を主宰したマクラウドとバンティングは1923年のノーベル生理学・医学賞を受賞している。二宮陸雄さんは1964年に、インシュリン発見40周年を記念して、カナダのG. A. Wrenshall, G. Hetenyi Jr, W. R. Feasbyの3人により書かれた“The Story of Insulin”をバンティング・ベスト研究所に留学中に、原著者からの依頼を受け、邦訳して『インシュリン物語』を出版している（1965年初版現在絶版 岩波書店）。二宮さんのずばぬけた語学力と広い知識、インスリンや糖尿病に限らない医学・医学史における研究や医学に限らない翻訳書・著書の恩恵を受けた方々が多いと思います。本書には『インシュリン物語』ではふれられていないことについても、二宮さんの多くの智が加わって書かれている。『インスリン物語』では

東アジアでは「消渴」と呼ばれた糖尿病と思われる疾病の歴史や、『インシュリン物語』以降の世界の糖尿病研究の成果も含めて著されている。現代の診療・医学教育、そして患者さんの指導にも大変有意義な書と考え紹介します。次のような目次立てとなっている。二宮さんの多くの著書に通ずることであるが大変にわかりやすく書かれていることもあわせて付記しておきます。

- I. 糖尿病と戦う
- II. 糖尿病に挑む
- III. インスリンの発見
- IV. その後の研究と新しい発見

なお現在は絶版の翻訳書である1965年の『インシュリン物語』では下記であった。

- 一. インシュリン以前
- 二. 発見
- 三. 新しい治療
- 四. インシュリンを理解するために
- 五. 糖尿病

(渡部 幹夫)

[医歯薬出版株式会社, 〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10, A5判, 320頁, 3,200円+税, 2002年9月第1版, 2015年6月復刻第2版]